

これからの梨の栽培管理について (第2号)

令和8年3月12日
富山農林振興センター
なのはな農業協同組合

1 黒星病対策について

■落葉処理の見直し

落葉した黒星病秋型病斑からの「子のう胞子」飛散は、3月中下旬頃から本格的に始まると予想されます。

落葉処理が終了した園地でも、葉が原型のまま残っていないか早急に再度確認をお願いします。

2 これからの防除について

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)
1	3月19~21日 (萌芽期)	デランフロアブル 1,000倍	300 ㍉	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌)	
2	3月27~29日 (りんぼう脱落直前)	デランフロアブル 1,000倍	300 ㍉	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌) カイガラムシ類幼虫(展着剤)	
		アプロードフロアブル 1,000倍 アビオンE 2,000倍			
「これからの梨栽培(第1号)」で「1,000倍」となっていますが、 正しくは「2,000倍」 です。お詫びして訂正いたします。なお、アビオンEは1,000倍での使用も可能です。					
3	りんぼう脱落期 (4月4~6日頃)	ベルコートフロアブル 1,500倍 サムコルフロアブル 10 5,000倍	300 ㍉	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、シンクイムシ類、ケムシ類	
<p>※3回目の防除については、「幸水」長果枝のりんぼうが脱落したことを確認して実施してください！！ ※りんぼう脱落前では、りんぼうに付着した農薬が、りんぼうと共に脱落し農薬付着が不十分な組織が現れ、感染リスクが高まります(生育ステージの目安は、別途配布した「日本なしの凍霜害調査に係る観察記録表」を参照してください)。</p>					
4	4月12~14日 (開花直前)1分咲き	ネクスターフロアブル 1,500倍 オーソサイド水和剤 80 1,000倍	300 ㍉	黒星病、赤星病 輪紋病、黒斑病、うどんこ病	
5	4月21~23日 (落花直後)	デランフロアブル 1,000倍	300 ㍉	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌)	
特	4月24日 ~5月5日頃	コンフューザーN 150本/10a		リンゴコカクモンハマキ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ	
6	4月29日 ~5月1日 (落花10日後)	ベランティーフロアブル 8,000倍	300 ㍉	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌) ニセナシサビダニ、アブラムシ類、カイガラムシ類	
		トレノックスフロアブル 500倍 モベントフロアブル 2,000倍			
「ハチハチフロアブル」の在庫がある場合は、「モベントフロアブル」を「ハチハチフロアブル」(2,000倍)に代えることができます。 なお、「オーシャイン水和剤」の在庫がある場合は、来年使用する予定なのでそのまま保管してください(ただし、使用期限に注意!)					

- ①ハマキムシ類の発生が少ない園では、3回目のサムコルフロアブル10をダイアジノン水和剤34(1,000倍)に変更可能です。
 - ②開花期頃にハマキムシ類の発生が多かった園では、5回目のデランフロアブルにサムコルフロアブル10(5,000倍)を混用してください。
 - ③散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は午前5時以降としてください。
 - ④雨天が予想される場合は、雨前散布を心掛けてください。
 - ⑤黒星病の芽基部病斑は見つけ次第、早急に切除して園外に持ち出し、適正に処分してください。
 - ⑥近年、ハマキムシ類などが増加傾向なので、コンフューザーNは**全園・園地全体に必ず設置**してください。
- ※今後の生育状況や、黒星病子のう胞子飛散状況によっては、防除日を変更する場合があります。

3 開花予測について

今後の気温が3月21日までは2週間気温予報の予想気温、その後が平年並みに推移した場合、各品種の開花予想は表1のとおりです(3/10現在)。

ただし、今後の気温によっては開花期が大きく前後する可能性もあるので、気温の推移と生育状況をこまめに確認してください。

表1 開花予測

品種名	令和8年予測(3月10日現在)	
	開花始め(前年・平年差)	満開日(前年・平年差)
幸水	4月14日 (-1・-2)	4月18日 (0・-2)
豊水	4月11日 (0・-2)	4月15日 (+1・-1)
あきづき	4月13日 (-1・0)	4月16日 (0・+1)
新高	4月9日 (+1・-2)	4月12日 (+1・-2)

※前年・平年差は、プラス値は「遅い」、マイナス値は「早い」を表す

4 人工受粉の留意点

(1) 受粉は暖かい降雨の無い日に行いましょう

気温が低い時間帯や降雨中の人工受粉では、花粉が発芽しなかったり、めしべに付かなかつたりする恐れがありますので、日中の暖かい時間帯に受粉を行いましょう。なお、受粉後3時間以内に降雨があった場合や、受粉後に霜害を受けた場合には受粉をやり直しましょう。

(2) 貯蔵花粉使用の留意点

貯蔵花粉を使用する場合は、発芽試験結果によって以下のとおり使い分けしてください。

- 発芽率が「◎」(発芽率70%以上)のものは増量可能な良い花粉として扱えます。
- 発芽率が「○」(発芽率70~50%)および「△」(発芽率50~30%)のものは増量せず使用してください。
- 発芽率が「×」(発芽率30%以下)のものは発芽率の高い花粉の増量剤としてのみ使用してください。

5 防霜対策

開花前~幼果期にかけて、冷気のたまりやすい園地では凍霜害の危険が高まります。下記(1)~(5)のとおり、事前準備、防霜対策について留意してください。なお、防霜対策は、「安全限界温度」(表2)に基づき、凍霜害が発生しやすい「花卉露出始期」~「幼果期」の期間中の梨園地の棚面の温度が-0.3℃を下回った時を実施基準とします。

表2 生育ステージ別の安全限界温度(※)および対策実施基準

生育ステージ	花卉露出始期	花卉白色期~開花直前	満開期	幼果期
安全限界温度	-2.5℃	-1.8℃	-1.3℃	-1.3℃
対策実施基準	-0.3℃(満開期の「安全限界温度」+1.0℃)			

※安全限界温度：梨の樹が当該温度に1時間置かれた場合に、被害がわずかでも発生する温度

(1) 気温の低下軽減

低温層の発生位置を出来るだけ低くするため、草生栽培園では短く刈り、棚面付近の気温低下の軽減を図ってください。

(2) 冷気の流れ込み防止

冷気が流入してくる方向にはネットを下ろす等、冷気の流入を防ぐよう努めてください。

(3) 生育ステージの把握

富山県気候変動適応センター(環境科学センター)から配布のあった「日本なしの凍霜害調査に係る観察記録表」などを活用し、生育ステージをこまめに確認・記録しましょう。

「日本なしの凍霜害調査に係る観察記録表」を記録された方は、今後の凍霜害発生リスクの解析等に活用するため、記録表の提供にご協力ください!

⇒園地の地番・氏名を記入し、梨会館へ提出(コピー可)するか、記録表に記載された番号へFAX

(4) 気象情報等の把握

霜注意報、予想最低気温等の把握に努めるとともに、梨園地低温警報メール(登録者のみ)の確認により、凍霜害発生リスクに備えましょう。

(5) 燃焼法による防霜対策

降霜が予想される場合は、園地周囲のネットを下ろし、燃焼資材(灯油+キッチンペーパー、または練炭)を用いて園内の温度上昇や空気の対流促進を図りましょう。

※防霜対策の詳細は令和4年3月に配布された「呉羽梨防霜対策マニュアル」で確認してください。